



ulu  
noen  
うるう農園  
ULUUnoen

---

# うるう農園の いちご輸出取組

2025年9月11日

# うるう農園グループ

福岡県久留米市に位置し、あまおう苺を主に12-4月で約90t生産。

耕作面積は2ha。あまおう生産面積は日本一の規模となる。

いちご狩り事業中心であったのが、集客数は伸ばしながらコロナ後は  
通販事業が大幅に伸び主力事業に置き換わり、2022年12月より輸出開始

うるうグループ：(株)うるう農園・(株)UluuJapan（輸出）

うるう未来農業建設(株)（ハウス建設）・(株)FarmValue（佐賀農場）



## 沿革

- 2017年 代表夫妻によって創業 野菜の有機栽培開始
- 2018年 いちご栽培開始
- 2019年 特別栽培に認証される  
じゃらん九州人気いちご狩り施設グランプリ優勝
- 2020年 法人化『株式会社うるう農園』  
じゃらん九州人気いちご狩り施設グランプリ2年連続優勝
- 2021年 通販販売数8000件突破  
じゃらん九州人気いちご狩り施設グランプリ3年連続優勝
- 2022年 香港・シンガポール・台湾への輸出開始  
じゃらん九州人気いちご狩り施設グランプリ4年連続優勝  
通販販売数1万5000件突破
- 2023年 耕作面積1.1ha タイ・マレーシア輸出開始
- 2024年 耕作面積1.5ha じゃらん九州優勝5年目
- 2025年 佐賀農場 開設 グループ合計2ha 米国・比輸出開始予定

これまでの輸出から見てきたこと

## 日本の果物輸出：現在、そして未来

韓国、中国産果物の高品質化により

日本の果物の優位性低下

### 東南アジアの売り場



これまでの輸出から見てきたこと

## 日本の果物輸出：韓国という驚異

釜山郊外のいちご団地：1農家あたりの平均面積0.7ha

福岡のいちご農家：1農家あたりの平均面積0.2ha

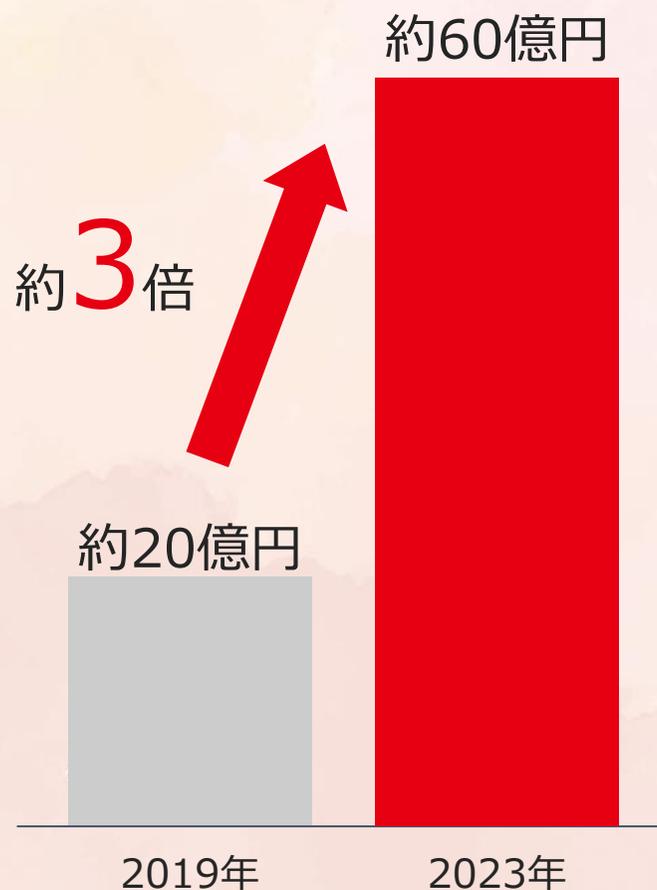
### 韓国の省力化集約型いちご栽培



これまでの活動から見てきたこと

## 日本の果物輸出：過去から現在、そして未来へ

### いちごの輸出額



キーワードは

# 台湾市場

親日家の多い台湾で日本のいちごは  
高額でも評価されている

輸出拡大の  
見込みがある

今後の取組

## 台湾の残留農薬規制への対応



### アジアで最も低い残留農薬基準値

福岡県規制の2割しか農薬を利用できず、  
残留成分0.01mlも検出が許されない農薬が多数  
使用禁止 化学農薬の代替技術は確立されていない



台湾用の防除体制を構築し  
あまおう農家約1400軒のうち  
約5軒しかない台湾に輸出可能な  
栽培方法を行う

# 台湾への輸出を可能にする栽培体系



- ①使用可能な農薬を選定
- ②天敵利用
- ③捕虫器・防虫LED

## 育苗期

定植時害虫0を目指す  
重要害虫対策では定植前の炭酸ガス処理  
天敵・捕虫器を利用

## 開花以降

うどんこ病：紫外線 UV-B 照射  
ハダニ類：天敵カブリダニ  
他病虫害：有機JAS基準農薬

## 捕虫器



## 協議会の活動趣旨

輸出機会を最大化するための  
様々なイベントを開催

海外市場のニーズの掌握  
対応した商品の開発



いちご生産者等の  
輸出意欲醸成



九州北部のいちごの魅力を出し  
ターゲット市場に発信



他国に勝る輸出好適品種の開発

今後の取組

## 台湾向け 農地の拡大



日本一の産地形成へ

## うるうグループの今後

久留米・佐賀農場

- ① 2027年有機 J A S 認証
- ② 完全制御型スマート農場
- ③ 地熱発電冷暖房



再現性のあるいちご栽培

